八幡事業所 Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所 Tel.Fax 647-3210
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp
HP:http://www.npo-sawayaka.net/

さわやか

2023年10月26日
第３２１号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

祝 創立五十周年記念式典

公益財団法人北九州市身体障害者福祉協会

令和五年九月二十三日（土）に北九州市小倉北区のリーガロイヤルホテル小倉に於きまして、公益財団法人北九州市身体障害者福祉協会（以下身障協会）の創立五十周年記念式典が開催されました。「さわやか」から山田理事長が出席しました。

出席者は北九州市議会議員や、保健福祉局をはじめ、市内の障害者団体や関係団体の方々など身障協会の職員も含め八十余名で、大変盛大に行われました。

北九州市が身体障害福祉モデル都市を宣言した年に設立

開会の辞の後、竹田英樹理事長が、「みなさま、おはようございます。

本日は、お忙しい中、北九州市身体障害者福祉協会設立五十周年記念式典にご出席いただきありがとうございます。

当協会は、北九州市が『身体障害者福祉モデル都市』を宣言した昭和四十八年に設立されました。

私が当協会に関わったのが設立されて六年後の昭和五十四年に職員として採用されました。

公益財団法人
北九州市身体障害者協会
竹田英樹 理事長

採用された当時は、障害のある人がどのような環境の中で生活をしているのかほとんど知りませんでした。

私が知り合った車いすを使用している人が、喫茶店に行ったことがないと言うので喫茶店に行こうということになりました。

喫茶店に着きましたら、お店から店員が出てきて『すみません、お店が狭いので、車いすは他のお客様の迷惑になるので他のお店にお願いします』と言われ入店拒否を受けました。

タクシーは手を上げて待っていると、車いすを見ると止まらず行ってしまいます。

友人がトイレに行きたいと言うので、探しましたが見つかりません。

小倉駅にはあるだろうと行きましたが見つかりません。

駅員に聞くと『駅の裏の奥の貨物用荷物の搬入口近くにあります』と教えてくれましたので行ってみると、車が頻繁に出入りしている近くにトイレがありました。

トイレに近づくとドアには鎖がかかって開かないようになっており、ドアに張り紙が貼ってありました。

読んでみると『トイレを使用される方は、事前に予約してください』と書かれていました。

急いで駅長室に行って開けてもらいました。

駅員に『なぜ、鎖をかけているのですか』と尋ねると、『人目につかない場所なのでホームレスの人が入らないように鎖をかけています』との返事でした。

私は、その知人と一緒に街に出かけて感じたことは、障害のある人たちを取り巻く環境は社会が一人の人としての扱いをしていないということでした。

障害のある人の環境は、昭和五十六年の『国際障害者年』以降ずいぶん良くなってきたように思いますが、平成二十八年度に北九州市が『障害児・者等実態調査』を約五六〇〇人を対象に実施した調査の回答では『差別を受けたり、いやな思いをしたことがある』と回答した人が約五十％ありました。

昨年の令和四年度に実施した調査では約四十五％とわずかですが減りました。

それでも二人に一人がまだ差別を受けていると感じています。

私が障害者福祉に関わった四十五年前は、私は障害者福祉という山を登り始めた時でした。

四十五年が経ち山の中腹に来た時に私の山登りを助ける『アイテムの杖』をもらいました。

それは、二年前に改正された障害者差別解消法、今年改正に向けて動いている北九州市の差別解消条例です。

その杖を持って障害者福祉という山の頂上を目指してまた登り始めます。

みなさまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします」と挨拶がありました。

それから、北九州市保健福祉局の武藤朋美局長の挨拶を保健福祉局障害福祉部の西尾典弘部長が代読され、北九州市議会保健福祉委員会の村上直樹委員長の挨拶がありました。

身障協会の五十年の歩みを当時の写真を見ながら懐かしむ

その後歓談に入り、コーヒーとデザートをいただきながら、身障協会の五十年の歩みを当時の写真を見ながら振り返って鑑賞ました。

とても若いころの竹田理事長の写真や、懐かしい方々の写真が映し出されると大きな歓声があちらこちらで上がっていました。

（裏面へつづく）

第56回
ボランティア研修交流会ご案内

日にち：令和5年11月12日（日）
場　所：小倉リーセントホテル
時　間：11：30～15：30
（受付は11：00より）
会　費：3,000円

《第１部》 研修会
講　演：『食べものの伝説』
講　師：公益財団法人健和会
健和会京町病院
医師　江頭　眞紀子氏

《第２部》 交流会
ボランティアの皆様のご参加を
事務局一同、お待ちしております。

主　催：特定非営利活動法人
通院介護センター「さわやか」

Dr. 江頭眞紀子氏による とっておきのお話し

好評につき【とっておきのお話し】を公益財団法人健和会 健和会京町病院の医師であり、「さわやか」の名誉顧問でもある江頭眞紀子先生に執筆していただきましたのでご紹介します。

ポンペイ

公益財団法人健和会　健和会京町病院
医師 江頭　眞紀子

ヤマザキマリさんの力作マンガ「プリニウス」がついに完結しました。

世界の不思議な事物を求めて、霊を見る猫や、危険を予知するロバや、もの言うカラスをともなった漫遊の旅がもっともっと続いてほしかったのですが。

「博物誌」を書いたローマの学者プリニウスは、ポンペイを襲った紀元七十九年のベスビオスの噴火に巻き込まれて亡くなったのでした。

ベスビオス山のように、大量の軽石や火山灰を噴き上げる大噴火をプリニー式噴火と呼ぶのは、プリニウスの名にちなんでいるそうです。

長年疑問に思っていたことがありました。

ポンペイの話を初めて知ったのは小学生ごろのこと。

新聞の日曜版だったのだろうと思います。

当時の新聞には少ないカラー写真で、褐色の石畳の上に、段差につまずいて転んだような姿の白い石膏像があるのです。

ポンペイの人々は降りしきる灰に埋まって命を落としたというのです。

私は不思議に思いました。どうして灰に埋まるまで逃げなかったんだろう？

雲仙普賢岳からの火砕流の流出が繰り返し起こってニュースになっていたある日、ヘリコプターが写した実況映像が茶の間に流れました。

灰で白くなった地面に、点々と白い灰を被って横たわる人の姿。

「あっ、ポンペイだ！」

あの石膏像そのままの姿だったのです。

一九九一年六月、報道陣が集まっていた「定点」を火砕流が襲い、数十人の犠牲者が出たその現場の映像でした。

その映像はその後二度と放映されることはありませんでした。

ポンペイを襲ったのも火砕流だったのだと、その時悟りました。

それでは逃げる暇もなかったわけだ。

私はポンペイに関する本を探して読んで、サージと呼ばれる火砕流が何度もポンペイの町を襲ったと言う記述を確認しました。

その後ＮＨＫのドキュメンタリーなどで、あの石膏像がどういうものだったか知りました。

火山灰は固まって石のようになります。

人の遺骸はやがて腐敗して灰の中に空洞が残ります。

その空洞に石膏を流しこんで型を取ったのがあの石膏像なのです。

抱き合って息絶えた人々、四肢を空につっぱって苦しむ犬の姿などが保存されていたのです。

紀元前一世紀、剣闘士のスパルタクスが反乱を起こし、仲間とともにベスビオス山に立てこもったと言われています。

その頃のベスビオス山は、中腹までブドウ畑に覆われたのどかな山だったとか。

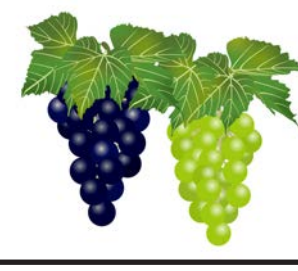
先ごろテレビで「ポンペイ」という映画を見ました。

ハリウッドが好きな古代ローマの活劇ものです。

主人公は知らない俳優でしたが、ローマ人に一族を皆殺しにされ、奴隷にされたケルト人の剣闘士の若者。

貴族の娘との許されない恋の話です。

巨大な闘技場のセットはえらく金がかかっていそうだし、噴火の映像はＣＧを駆使したのでしょう。



迫力があってよくできていたけど、燃えさかり崩れ落ちる市街で、宿敵同士が渡り合ったり、バシバシ落ちてくる火山弾をかいくぐって、さらわれた女性を追いかけてとりもどしたり、なんと都合よくできた話だなあと思って見ていましたが、ラストシーンでは逃げきれないと悟った主人公の男女が、抱きあって火砕流に呑まれて行くのです。

この世で結ばれることは許されない二人。

エンドマークの背景は、口づけしたままの石膏像なのでした。

（表面よりつづき）

それから、「身障協会芸能部？」の方々による宮崎県の伝統芸能で、「ひょっとこ踊り」が披露されました。

とても練習が大変だったそうですが、しなやかで、優雅な踊りでした。

そのなかで、ユウモアあふれる踊りに会場の方々の笑いと感動の中で、一緒に踊られる方も出ました。

宴もたけなわとなり、今年の新入社員で聴覚に障害のある細江知真さんの手話を塚本美紀さんが通訳し、二人で力強い決意表明を行いました。

最後に、森聖子館長のお礼の言葉で幕を閉じました。